

3 目指す姿（基本目標）

第2章前半の、本県を取り巻く「時代背景と課題」を踏まえた上で、基本理念を実現するため、「暮らし」「子ども」「経済」というキーワードに着目して、次のとおり3つの基本目標を設定し、これに沿って、10年後の千葉県の具体的な姿を示すことで、本県が進むべき方向を明らかにします。

- I 「安全で豊かな暮らしの実現」
- II 「千葉の未来を担う子どもの育成」
- III 「経済の活性化と交流基盤の整備」

I 「安全で豊かな暮らしの実現」

災害に強く、事件や事故が起こりにくい、安全で安心して暮らせることができる地域社会づくりが確実に進んでいる。

また、安心できる医療体制の整備、充実した福祉サービスの提供、生涯を通じた健康づくりや地域コミュニティの再生が図られ、健康で生き生きと暮らせる地域づくりが着実に進んでいる。

さらに、多くの県民がスポーツや文化・芸術活動に親しみ楽しむことができ、また国際交流が盛んに行われるなど、心豊かで元気に暮らせる地域社会づくりが進んでいる。

そして、環境保全と再生に取り組み、千葉の豊かな自然が子どもたちに継承されている。

「安全で安心して暮らせる地域社会」

- 県民一人ひとりがしっかりと防犯意識を持ち、行政や地域が一体となって犯罪を防止する本県の取組が、全国モデルになっている。
- 大地震や風水害、土砂災害などによる被害を最小限にとどめるため、インフラ整備・改修が進む一方、万が一、災害にあったときでも、地域住民同士が声をかけ、助け合い、安心して暮らすことができる地域社会が形成されている。
- 県民一人ひとりに「交通事故は絶対に起こさない」という意識が浸透し、また、道路や標識などが整備され、子どもからお年寄りまでが交通事故を心配しないで街を歩いている。
- 災害、犯罪、交通事故などに対して、市町村・学校・消防・警察等の関係機関との相互の連携が図られ、迅速な対応ができています。
- 消費生活に関する情報が十分に提供され、身近に相談できる窓口が整い、消費者が、安全で安心できる商品やサービスを選択できる体制が整っている。
- 新型インフルエンザの流行など健康を脅かす事態に対して、迅速かつ的確に対応できる健康の危機管理体制が確立している。

- 県内で流通する食品に関して、正確な情報が提供されるなど、消費者と生産者・事業者との信頼関係を築くための体制が構築されている。

「健康で生き生き暮らせる地域社会」

- 県内医療機関のネットワーク化が図られ、いつでも、どこでも、誰もが安心して治療を受けられる医療体制が整っている。
- 県民一人ひとりの健康に対する意識が高まり、自発的な健康づくりが行なわれている。
- 介護予防の取組が進むとともに、細やかな介護サービスが提供され、高齢者が元気に生活できる環境が整備されている。
- 障害のある人のライフステージに沿った福祉サービスが提供され、障害のある人がその人らしく暮らせる環境が整備されている。
- 地域コミュニティが再生され、地域住民が互いに支え合いながら、生き生きと安心して暮らしていける地域社会が確立されている。

「心豊かに元気に暮らせる地域社会」

- 多くの県民が日常生活の一部として運動に親しみ、体力の向上が図られ、文化活動を通じ、心豊かに暮らす人が増え、地域は活気があふれ、「元気といえば千葉県だ」と言われている。
- 高い目標を持ってスポーツや文化・芸術活動に取り組む人が増え、全国的にトップクラスの成績を収めている。
- 地域の人たちによって埋もれていた伝統文化が復活し、その文化が多くの人たちとの交流を生み、さらに新しい現代的な要素が取り入れられるなど、ちば文化の魅力が増している。
- 県民主体の国際交流や国際協力が活発に行われ、世界の様々な地域との間に、草の根レベルのパートナーシップが築かれている。
- 外国人にも住みやすい県として、首都圏に勤務する外国人の転入が増え続けている。

「千葉の豊かな自然を子どもたちに継承」

- 本県の豊かな自然が、県内外の多くの人たちの憩いの場として、また農林水産業など経済活動の場として、しっかりと子どもたちに引き継がれている。
- 県民・企業・行政が、一丸となった低炭素社会¹⁾の実現に向けた取組が進んでいる。
- 県民・企業・行政が、一体となって廃棄物の削減や再使用、リサイクルに積極的に取り組み、限りある資源をどこよりも有効に活用している。
- 産業廃棄物の新たな不法投棄がゼロになっている。
- 大気や水がきれいになり、夜空の星が観測でき、川では様々な魚が見られるようになっている。

Ⅱ 「千葉の未来を担う子どもの育成」

子育てに必要な多様なサービスが提供され、地域全体で子育てを支援する体制づくりが進み、安心して子どもを産み育てられる環境整備が着実に進んでいる。

また、家庭・学校・地域が一体となり、心が豊かで、身体が健やかに育ち、郷土を愛し、個性輝く子どもたちが、地域社会に元気と活気を与えている。

「安心して子どもを産み育てられる地域社会」

- 保育所の入所待機児童が解消され、多様な保育ニーズに対応した安心してまかせられる保育サービスが展開されている。
- 子育て世代の経済的負担が軽減され、地域社会全体で安心して子育てを支援する体制が整備されている。
- 仕事と家庭を両立した働き方ができる職場環境が定着し、仕事から帰ってきたお父さんも育児に参加する姿が当たり前になっている。

「郷土を愛し自立した健康な子どもの育成」

- 「おはようございます」「いってきます」「いってらっしゃい」という元気な子どもたちの声が朝から街にあふれている。
- 他人を思いやり、郷土を愛し、自己表現のできる個性輝く子どもが育っている。
- 子どもや若者が健やかに育つための教育体制が整備され、家庭・学校・地域が一体となって、子どもや若者の成長を支えている。
- 子ども一人ひとりの希望や能力を引き出すことができる学習環境が整っている。
- いじめや暴力がなく、子どもたちが学校に行くことを楽しみにしている。
- 障害のある子どもたちも、障害のない子どもたちも、共に学び、地域が子どもたちの笑顔で満ちている。
- ニートやひきこもり、不登校だった子どもや若者たちが、周りの温かい支援によって、いきいきと仕事や勉強に取り組んでいる。
- 子どもや若者を取り巻く有害な環境をなくすための取組が、地域全体で進められている。

Ⅲ 「経済の活性化と交流基盤の整備」

本県の持つ財産(宝)を最大限に生かして、光り輝く千葉の魅力が全国に発信され、多くの人を訪れ、地域が活性化している。

また、産学官のネットワークにより新事業や新産業が生み出されるとともに、中小企業等の経営基盤が一層強化されることにより、挑戦し成長し続ける産業活動により経済が活性化している。

さらに、全国屈指の農林水産業が、地域を支える力強く魅力ある産業に育っている。

そして、幕張や成田など、活力ある交流拠点が形成されるとともに、誰もが住みたくなくなるような質の高いまちづくりが着実に進んでいる。

「光り輝く千葉の魅力を全国に発信」

- 安全で新鮮、美味しいものなら「千葉県産」だという評価が県民をはじめ全国の消費者に浸透し、食卓には千葉県産の野菜や果物、米、魚、肉、牛乳などの食材や色鮮やかな花が並べられている。
- 成田空港が羽田空港と、より短時間で結ばれ、一体的な活用が進み、成田空港は、アジアのゲートウェイとして多くの利用客で賑わいを見せ、国際交通の起点になっている。
- 東京湾アクアラインの活用により、首都圏の人やモノの流れが大きく変わり、企業誘致が進み、観光客が大幅に増えるなど地域が活性化している。
- 千葉の豊かな自然、名所・旧跡や祭りなどの魅力ある文化、さらには農業・漁業体験など、本県の財産(宝)が最大限に生かされ、様々な目的を持った観光客・来訪者が、県内各地で一年を通して見られるようになってきている。
- 東京湾アクアラインが使いやすくなり、首都圏の一体性がさらに増して、房総半島に家屋や農園を購入したり、週末を本県で過ごす人が数多く見られるようになってきている。また、温暖で過ごしやすいと評判になり、他都道府県から転入する人が増えている。

「挑戦し成長し続ける産業」

- 地域の特徴や強みを生かした産業が活性化するとともに、地域内外の産学官のネットワークが強化され、我が国の経済をリードする新事業・新産業が創出されている。
- 本県で生み育てられた独自の技術や新しいビジネスモデルを元に発展したベンチャー企業が、世界で活躍している。
- 新興国の台頭など、世界経済の変化を好機ととらえ、県内に立地している企業が新商品の開発や販路拡大に果敢に挑戦し、経済的な活力が増している。
- 県内の中小企業が自らの特徴を生かした事業を強化することによって、力強い産業活動を展開している。

- 県内の特色ある農産物や水産物などの地域資源を生かした新製品や新商品が数多く生み出され、県内はもとより全国に向けて販売され、優れたブランドになっている。
- 地域の顔である中心市街地や商店街では、後継者が育ち、さらに新たに店を開いた人たちが定着して活気が戻り、ユニークなイベントも行われるなど、かつてはシャッター通りと呼ばれた場所が、にぎわいと活気に満ちている。
- 県の産業の持続的な発展のもとで、年齢・性別・障害の有無などに関わらず県民がその持てる意欲と能力を発揮して明るく働いている。

「地域を支える力強い農林水産業」

- 消費者ニーズに敏感な生産者が、流通業者や外食産業等と提携した生産活動などにより、所得を増やし、本県の農林水産業が若者にとっても魅力があり、力強い産業に育っている。
- 機械化・省力化技術が普及し、大根・ねぎなど露地栽培で大規模な農業が行われている。また、野菜・花の栽培の施設化や、レタス・サラダ菜など植物工場での生産が進み、高収益で天候に左右されない農業が展開されている。さらに、これらによる雇用の増加などが地域の活性化に役立っている。
- 水田を活用した飼料生産も進み、国産飼料を中心とした畜産経営が展開されている。さらに、稲作の大規模化が進み、低コストで生産された千葉県のおいしいお米が人気を博している。
- 稚魚の放流、魚の住みやすい環境づくり、水産資源を計画的に利用する漁業の実施により、海・川が豊かになっている。また、生産・加工技術の更なる進展により、質の高い水産物を安定して供給しつづけることのできる水産業が展開されている。
- 県民が積極的に森林づくりに参加し、里山を中心とした美しい景観が保全されるなど、かけがえのない県民共通の財産として豊かな森林が育まれている。さらに、森林の恵みである県産木材が住宅や公共施設など身近なところで利用されている。
- 千産千消や食育の浸透などにより、都市と農山漁村の交流が進み、都市居住者が週末に農山漁村地域を訪れ、環境の保全や農林水産業に携わるなど「千葉型スローライフ²⁾」が定着し、賑わいのある農山漁村が形成されている。
- 首都圏の台所を担う本県の農林水産業は、消費地への輸送距離が短いため、地球温暖化防止に貢献する産地として評価が高まっている。

「活力ある交流拠点を形成し、誰もが住みたくくなるようなまちづくり」

- 周辺地域との、共生策が一層推進され、豊かな地域経済に支えられた世界に誇る成田国際空港都市になっている。
- 幕張メッセのオープンでスタートした幕張新都心は30周年（平成31年）を迎え、「働く」「住む」「学ぶ」「遊ぶ」の4つの機能を併せもつ都市“MAKUHARI”として、海外にも広く知られるようになり、経済、文化などの分野で国内外に魅力を発信す

る交流拠点都市になっている。

- かずさアカデミアパークでは企業や研究所等の立地が進み、東京湾アクアラインや首都圏中央連絡自動車道（以下、「圏央道」という）を通じた周辺地域・対岸との交流によって、活発な産業活動が営まれている。
- 圏央道や東京外かく環状道路（外環道）などの広域的な幹線道路の整備が進み、成田空港へのアクセス強化や県北西部の交通渋滞が大幅に緩和されている。また、県内の多くの地域から1時間で県都千葉市に到達できるようになっている。
- 地域の人たちが力を合わせて、その地域の特性を生かしながら活性化に取り組み、他地域と競い合っている。
- 中心市街地に活気と賑わいが戻り、多様な価値観やライフスタイルに対応した居住環境の中で、人々が生き生きとした暮らしを営んでいる。
- コンパクトでバリアフリー化されたまちづくりが進み、障害がある人も、高齢者も、誰もが安心して住みことができ、快適な暮らしを楽しんでいる。
- 住民自らが周辺の環境と調和した美しい街並みづくりに参加したり、緑豊かな自然を身近に感じることができる公園で余暇を過ごすなど、県民がゆとりを持って地域の暮らしを楽しんでいる。

【注】

- (1) **低炭素社会**：現状の産業構造やライフスタイルを変えることにより、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を低く抑えた社会のことをいいます。石油など化石燃料使用量の削減、高効率エネルギーの開発、エネルギー消費の削減、資源の有効利用などによって、その実現を目指します。
- (2) **千葉型スローライフ**：首都圏に位置し、都市と農山漁村が共存する千葉県だからこそ体験できる「農あるライフスタイル」です。個人のニーズに合わせ、週末の取組体験、二地域居住等までが選択可能な、充実感の高い日常生活です。